

研究課題名：ヒト肺癌組織におけるステロイドホルモン受容体の役割についての検討

1. 研究の対象

東北大学病院または宮城県立がんセンターにて 1998 年 1 月～2019 年 11 月に外科的肺切除または病理解剖が行われた症例。

2. 研究目的・方法

ステロイドホルモンは乳癌や子宮内膜癌、前立腺癌などのホルモン依存性腫瘍において腫瘍の増殖を促す重要な因子であることが知られている。したがって、これらの腫瘍に対してはホルモン作用を阻害する働きを有する多くの薬剤が治療薬として用いられている。一方、近年では、肺癌をはじめとするその他の腫瘍においてもステロイドホルモンの意義が着目されており、ER や PR の予後予測因子としての意義が報告されている。しかしその機序の詳細は未だ不明である。

本研究では、ステロイドホルモンの肺癌、特に NET、非小細胞肺癌に与える影響に着目し、これらを免疫組織化学的手法あるいは PCR 法を用いて明らかにすることを目的とする。具体的には、NET を含む原発性肺癌症例（原発巣の外科的切除検体）と健常肺組織（腫瘍に対する切除検体の非腫瘍部または病理解剖により採取された検体）の病理組織検体におけるステロイドホルモン受容体の発現動態と、その臨床病理学的因子、腫瘍関連因子の発現等との相関について検討する。

上記組織の病理組織標本を用い、ステロイドホルモン受容体の発現を免疫組織化学にて検討する。免疫組織化学の染色の評価は数値化にて行い、各因子間の相関、組織型による発現差、各種臨床病理学的因子（予後、再発、ステージ、TNM など）との相関についてそれぞれ統計学的解析を行う。その他、腫瘍の増殖や浸潤に関わる各種因子について免疫組織化学あるいは PCR 法による発現検討を行い、ステロイドホルモン受容体の発現との関連を検討する。

各データは臨床病理学的因子と共にエクセルにて集計し、SPSS もしくは JMP にて統計解析を行う（以上、電子データとする）。免疫染色像は顕微鏡写真撮影を行う（以下、写真データとする）。

研究期間：2020 年 1 月 16 日～ 2023 年 6 月 30 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、喫煙歴、肺癌の進行期 等

試料：病理組織標本

4. 外部への試料・情報の提供

東北大学医学系研究科には提供するが、それ以外の外部への試料・情報提供はありません。

5. 研究組織

研究代表機関：東北大学大学院医学系研究科病理診断学分野

研究代表者（代表医師）：笹野公伸

共同研究機関：宮城県立がんセンター

研究責任者：阿部 二郎（呼吸器外科診療科長）

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

宮城県立がんセンター 治験・臨床研究管理室 倫理審査委員会担当 寺島 貴之

〒981 - 1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山 47 の 1

TEL 022-384-3151（代表）（内線 974）

研究責任者：阿部 二郎（呼吸器外科診療科長）